

緩和ケア病棟開設
病院長 事業概要説明およびご挨拶

高岡市民病院緩和ケア病棟が、滞りなく開設できましたことを誠に嬉しく思います。関係の皆様、心より感謝申し上げます。また、今回の改修工事に尽力いただきました、工事関係者の皆様に対しましても、心より感謝申し上げます。通常通りの診療を行っている状況の中で大変ご苦勞をおかけしたかと思えます。本当にありがとうございました。

さて、本院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、高岡医療圏におけるがん医療の拠点病院として、その機能強化に取り組んでまいりました。その一環として、今回緩和ケア機能をさらに強化するため、専用病棟を開設することといたしました。

「緩和ケア」とは、一般的には「重い病を抱える患者やその家族一人ひとりの身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるようにささえていくケア」とされており、もともと医療の原点とも言えます。現時点で、緩和ケア病棟の主な対象はがん患者さんです。がんは日本人の死因の1位を占めており、日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんが原因で死亡する時代になりました。さらに、約7割のがん患者さんが、なんらかの苦痛を抱えておられます。その苦痛はいわゆる体の痛みである身体的苦痛ばかりではなく、不安・孤独感・いらだち・うつなどの精神的な苦痛、仕事や家庭の問題・経済的な悩み・人間関係などの社会的苦痛があります。さらにスピリチュアルペインと言われる苦痛があります。これは人生の意義、罪の意識、苦痛の意味、死の恐怖、宗教的な苦悩や死生観といった非常に解決することが困難な心の苦悩です。このようにがん患者さんの抱える苦痛は、単純な痛みではなく、全人的な苦痛とされております。緩和ケアはこのような全人的苦痛に関わって支える医療です。

本院は、これまでも緩和ケアに精通した医師すなわち、疼痛治療の専門医、がん治療専門医、精神科医などや、緩和ケア認定看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、作業療法士などの多職種で構成される緩和ケアチームが行ってききました。しかし、本院は地域がん診療連携拠点病院であり、包括的がん医療センターの充実を図るにあたり、がん医療のさらなる強化を目的に緩和ケア病棟の開設に至りました。そして平成27年9月に工事に着手し、本日の開設に至りました。

その概要は、全病室を個室(20床)とし、家族が休息・宿泊できるファミリールーム(和室1室)や車イスのまま入浴できる機械浴室、キッチンを備えた様々なイベントに活用できるラウンジ、そしてテラスガーデンなどを設置しておりま

す。患者さんが、いわば「第二のわが家」として過ごせるように、QOL（クオリティー オブ ライフ：生活の質）を重視し、安心とやすらぎの空間となるよう整備したところでございます。

緩和ケアは、切れ目のない医療が重要です。緩和ケア病棟で症状が安定された患者さんが、自宅や地域の医療施設に帰りたいと希望された場合、すみやかにお戻りいただけるよう、かかりつけ医をはじめとする地域医療機関と密接な連携・支援体制を構築してまいります。さらに、緩和ケア病棟を退院された患者さんで、自宅等での対応が困難になった場合は、いつでも本院で受け入れます。また、地域に緩和ケアの対象となる患者さんがおられる場合は、一定の手続きを経てご紹介いただければ、積極的に受け入れる体制も整えてまいります。

高岡市民病院憲章の「心のかよいあう医療を」という基本理念を合言葉に、緩和ケア病棟の運営にあたっていきたいと思います。

本日の緩和ケア病棟開設を新たなスタートとして、市民病院スタッフ全員が、心のかよいあう医療を実践していくことを通して、市民の皆様や地域医療機関の皆様に信頼され続ける病院を目指してまいります。

結びに、今後とも本院の運営にあたって格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。心よりお願い申し上げます。事業概要説明とさせていただきます。

平成 28 年 3 月 18 日
高岡市民病院長
遠山一喜